

|                |               |          |          |  |
|----------------|---------------|----------|----------|--|
| 卒業研究（IT アドバンス） |               | 演習       | 教授 植松 盛夫 |  |
| 科目カテゴリー        | 国際ビジネス学科の必修科目 | 科目ナンバリング | 21300401 |  |

### 1. テーマ

情報技術を用いた問題解決

### 2. ゼミのねらい・概要

前年度までの IT アドバンスクラスで学修したプログラミング技法を活用し、情報化社会のさまざまな問題の中からテーマを選択し、問題に対するソリューションを与えることを考える。

卒業研究のテーマは前年度に設定済みであるが、それに基づいて各自が自主的に研究を行う。研究の経過報告を月に1回程度、他のゼミ生の前で行う。後期には10月、11月、12月の第1週にその時点での卒業研究を提出し、それぞれ評価、添削、改善指導を行う。卒業研究は、12月中に最終原稿を確認後、1月の指定日に教学課窓口へ提出する。

卒業論文は、A4サイズ、1ページ40字40行で20000字以上（図や表は字数に含めず、枚数は表紙と目次を含めて15～20枚程度以上）にまとめる。

### 3. ゼミ計画

| (前期)                      | (後期)                |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 卒業論文テーマの選定             | 1. 卒業論文第一次提出        |
| 2. 卒業論文テーマの発表および検討        | 2. 様式の統一、論点の明確化     |
| 3. 卒業論文テーマの決定             | 3. 卒業研究概要の提出        |
| 4. 先行研究の調査                | 4. 中間発表①（ゼミ生の半分）    |
| 5. 問題提起と研究の目的             | 5. 中間発表②（ゼミ生の半分）    |
| 6. 研究計画について発表と検討①（ゼミ生の半分） | 6. 研究のまとめ方          |
| 7. 研究計画について発表と検討②（ゼミ生の半分） | 7. 卒業論文第二次提出        |
| 8. 論文における表現、表記規則          | 8. 結果と考察            |
| 9. 引用・要約の方法               | 9. 評価と展望            |
| 10. 研究経過報告①（ゼミ生の半分）       | 10. 卒論最終発表①（ゼミ生の半分） |
| 11. 研究経過報告②（ゼミ生の半分）       | 11. 卒論最終発表②（ゼミ生の半分） |
| 12. 研究手法の点検               | 12. 卒業論文最終チェック      |
| 13. 論文の構成                 | 13. 卒業研究発表会資料作成     |
| 14. 前期最終報告①（ゼミ生の半分）       | 14. 卒業論文の提出         |
| 15. 前期最終報告②（ゼミ生の半分）       | 15. 卒業研究発表会         |

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

文献調査（1時間以上）、プログラミング等（2時間以上）、研究経過報告書の作成・プレゼン資料の作成（1時間）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究進捗の口頭発表、中間発表および最終発表の際、個別に講評（不足している点や今後取組むべき点など）をコメントする。また、卒業論文を提出した後も、個別に講評（残された課題や今後進むべき方向性など）をコメントする。なお、コメントの通知方法については事前に連絡する。

### 6. ゼミにおける学修の到達目標

研究成果を論文にまとめ、その内容をプレゼンテーションできる。

## **7. 成績評価の方法・基準**

卒業論文の内容（60%）、経過報告書など提出物（30%）と発表（10%）により評価する。

## **8. テキスト・参考文献**

各自の研究テーマに必要と思われる文献などを個別に指示する。

## **9. 受講上の留意事項**

週に1度のIT卒業研究の時間は研究経過の発表の場であって、その時間に研究するわけではない。文献の調査研究、プログラムの作成などはすべて時間外に行うものであることを認識すること。

研究の経過報告はそれぞれ月に1回程度発表してもらう。この発表の場において、相互に質問・指摘・アドバイスを行い高めあうことを期待する。したがって、わかりやすく説明・報告できるように準備すること。PowerPointまたはレジュメを配布しての口頭発表を原則とする。

## **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

## **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。